



## Amir Tsarfati [よみがえりの初穂]

皆さん、シャローム。アミール・ツアルファティです。ユダヤの丘から、ライブでお届けします。ここはエルサレムの園の墓から 16 km ほどの場所で、あちらのお墓は、現在空っぽです。

さて、私の後ろにある、その墓のレプリカをご覧ください。そして、その時の感じを少し理解していただきたいと思います。2000 年前、その中に置かれ、転がされた石が、まさにそこを遮断し、封印されていて、彼は、たった一人でそこにいました。



ご覧ください。これは 25cm の厚さの石で、ここには少し溝があって、転がすことができます。でもご覧の通り、これを自分で動かすのは本当に難しく、内側から動かすのは、不可能です。この両側に 2 人のローマ兵が居れば、外から動かすことも絶対に不可能です。そして皆さん、…この過越しの季節は、本当に寒いですが、中はさらに寒いのです。そこは寒く、非常に孤独です。さらに、絶望的であると言えるでしょう。墓に留まっていると、墓の中すべてが完全に絶望的でした。このすべてから、その転がされた石が動き、起こった復活の力とその重要性が、皆さんにご理解いただけるかもしれません。



これからの数時間のうちに、世界中で、キリスト教徒が復活を祝います。彼らは、2000 年前に起こった福音全体の中で、最も重要な出来事を記念します。

イエス、イエシュアが、すべての春の例祭を成就するために来られました。過越し、初穂の祭り、もちろんその前に種なしパンの祭り、そして、後にペンテコステで、聖霊が降りました。

そこで、今日のメッセージは「よみがえりの初穂」です。

それは明らかに、レビ記 23 章に記されている旧約聖書の祭りの驚くべき成就をほのめかしています。実際、聖書にはイースターのようなものはありません。聖書には、ウサギや、エッグハント等のようなものはありません。私たちは、それを知っています。私自身、ユダ族のユダヤ人として、ここ、ガリラヤまたはエルサレムに居て、おもに、ユダヤ人の人たちに、イエスは来て、イエスについて語られたすべての事の成就された事を話しています。もちろん、興味深いのは、第一コリント 15 章 20 節から 23 節を読むと、

- 20 しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。
- 21 というのは、死がひとりの人を通して来たように、死者の復活もひとりの人を通して来たからです。
- 22 すなわち、アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストによってすべての人が生かされるからです。
- 23 しかし、おのおのにその順番があります。まず初穂であるキリスト、次にキリストの再臨のときキリストに属している者です。

(第一コリント 15:20~23)

では、お祈りをしてから、このメッセージを始めましょう。

お父様、あなたの御言葉に感謝します。この、2000 年前に起こった、人生を変え、世界を変え、歴史を作り、死を打ち破った、驚くべき出来事に感謝します。私が今座っている場所から、10 マイルも離れていない場所で、復活、よみがえりの初穂、過ぎ越しの後の最初の日曜日、まさに、あなたがレビ記 23 章で、イスラエルの民に祝うように定められた、この素晴らしい出来事、すべてを変えたこの出来事に感謝します。この出来事によって信仰が信仰となり、それなしでは、私たちの信仰は本当に虚しいものでした。ですから今、あなたの恵みによって、2000 年前の復活の重要性を伝えるこのメッセージを、届けられるようにしてください。

あなたに感謝し、あなたを祝福して、このお祈りを、イスラエルの復活したメシア、世界の救い主の御名によってお捧げします。

アーメン。

さて、ここ、レプリカの隣に座っていますが、今の時点で、墓は閉ざされています。考えてみてください。墓は閉ざされています。まだ日曜日の朝が来ていないからです。まだ、その預言が成就する時ではなく、まだ、死が打ち破られる時ではありません。もちろん、数時間で、2000 年前、(マグダラの) マリヤが他の弟子たちを置いて、まだ暗い中、彼女はイエスが埋葬された場所に向かいました。そして彼女は、墓が空っぽで、石が実際に脇に転がされていることを発見しました。非常に興味深いことに、復活の物語は、すべての福音書の中に書かれています。さて、ルカの福音書 24 章の最初の 12 節をお読みします。

- 1 週の初めの日の明け方早く、女たちは、準備しておいた香料を持って墓に着いた。
- 2 見ると、石が墓からわきまにころがしてあった。
- 3 入って見ると、主イエスのからだはなかった。
- 4 そのため女たちが途方にくれていると、見よ、まばゆいばかりの衣を着たふたりの人が、女たちの近くに来た。
- 5 恐ろしくなって、地面に顔を伏せていると、その人たちはこう言った。「あなたがたは、なぜ生きている方を死人の中で捜すのですか。
- 6 ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出さない。
- 7 人の子は必ず罪人らの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえらなければならない、と言われたでしょう。
- 8 女たちはイエスのみことばを思い出した。
- 9 そして、墓から戻って、十一弟子とそのほかの人たち全部に、一部始終を報告した。
- 10 この女たちは、マグダラのマリヤとヨハンナとヤコブの母マリヤとであった。彼女たちといっしょにいたほかの女たちも、このことを使徒たちに話した。
- 11 ところが使徒たちにはこの話はたわごとと思われたので、彼らは女たちを信用しなかった。
- 12 しかしペテロは、立ち上がると走って墓へ行き、かがんでのぞき込んだところ、亜麻布だけがあった。それで、この出来事に驚いて家に帰った。

(ルカ 24:1~12)

驚きです。ご覧の通り、弟子たちはそれについて聞いていましたが、それでも、それが起こるとは信じていませんでした。彼らはショックを受け、彼らは当惑していたと聖書は言います。さらにペテロは、女たちの言葉を信じなかったのです。自分の目で確かめたペテロでさえ、彼は不思議に思い、驚いて、本当に何が起こったのか、理解していませんでした。

皆さん、これは文字通り、歴史を変えた日です。これは、私たちの信仰のすべてがかかっている日です。それから、間違っただけではありません。間違いなく、イエスは、異なる 12 の場面で、500 人以上の人々に生きて現れ、パウロの前に現れた一度を除いて、主は十字架、そして、復活の後の 40 日間に姿を現しておられます。イエスが復活したのは、間違いありません。主を目撃したのは、たったの二人や三人ではなく、何百人もの人々の前に、何度も、複数の場所に現れたのですから。ところで、これらの出来事は記録されています。1 世紀のユダヤ人歴史家、フラウィウス・ヨセフスも否定していませんでした。

さて、創造の時代に戻って、理解を深めてみましょう。私たちはみな、知っている通り、詩篇 72 篇は、太陽が存在する前に、主の御名はすでにそこにあった、と告げています。(17 節参照)

「メシアは、太陽が創造される前にそこにおられた」  
太陽と月は、4 日目に創造されましたが(創世記 1:14~19 参照)、主はその前におられました。主は被造物の一部ではなかったため、彼は創造の前にそこにおられました。主は、創造された存在ではなく、ご自身が神の一部です。

それから、神が、アダムを創造され、その後アダムからエバを創造された時、この世界には、まだ死が存在しなかったのです。人は元々、死ぬように意図されていなかったのです。神はアダムを見て、「良い」とおっしゃったのです。それは完璧でした。創世記の 2 章は、素晴らしいです。人間とともに、驚くべき神の臨在がありました。そして、神はすべてを創造され、人がすべてに命名しました。主は、すべての動物を人間に支配させ、本当に素晴らしかったのです。

死は、唯一、罪の結果として入りました。罪が世に来た時、死が世に入ったのです。神が、アダムとエバに、その木から食べてはいけないとおっしゃった時、死はそこにありました。

17 「それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ。」

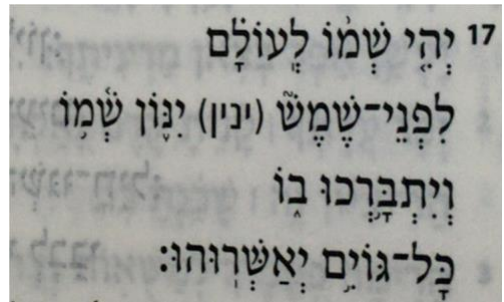
(創世記 2:17)

言い換えれば、「あなたがそれを食べなければ、あなたは死なない。」  
それが彼らに、「おい、心配するな。」と言ったのは、誰でしたか?  
「あなたはそれを食べても、まだ死なない。」

もちろん、3 章で始まったその犯行は、もともとアダムは「死なない」からだったことを告げています。そして、その創世記 3 章が死をもたらしたので、彼は今や、「死ぬ」からです。

今や、私たちには皆、有効期限があります。つまり、最初は何百年も生きたのが、ずっと下がり、こんにち、誰かが百歳を越えたら、それは驚くべきことです。薬や技術はとても素晴らしいです。確かに、私たちは 30 歳、40 歳、50 歳から、多分 80 歳ぐらいまで生きようになったでしょう。それでも、私たちは、いまだに死にゆく存在です。このからだは、パウロが言うように、まだ幕屋であって、建物ではありません。そして、私たちが永遠に行くためには、間違いなく新しいからだが必要です。

さて、思い出してください。人が墮落し、死が入りました。人の墮落が、世に死をもたらしたのです。そして、非常に興味深いことに、私は考えていたのですが、イエスは創造主の一部であって、被造物ではないので、明らかに死なないからだでした。明らかに、有効期限はなく、死に関わるようなことはありませんでしたが、



詩篇 72:17 ヘブル語

14 ことば（神）は人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。

（ヨハネ 1:14）

と聖書にはあります。その“ことば”が、人となりました。

1 初めに、ことばがあった。…ことばは神であった。

（ヨハネ 1:1）

覚えていますか？ そして、

14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。…

（ヨハネ 1:14）

人になった瞬間、「死ぬからだ」となった。言い換えれば、「今は死ぬ」ということです。死ぬことができます。そして、その死が、非常に興味深いのです。考えてみてください。なぜなら、主の死は、人の身代金だからです。それは、罪のための死ではなく、他人の罪のための死です。これは異なります。

そして、忘れてはなりません。聖書は告げています。復活とは、“朽ちることのない、いのちの力”（ヘブル 7:16 参照）を与えるものです。言い換えれば、主がよみがえられて、元居た場所に戻られた時、そこには、無限のいのちがあります。そして、無限のいのちのある所に、力があります。死は、もはやぶら下がっておらず、死は、もはや脅威ではありません。死は敗北した。朽ちることのない、いのちの力です。

ですから、イエスは、先ほどお伝えしたように、死ぬからだから、死なないからだとなり、そして今や、復活は私たちに正当性を与えるのです。主の贖いの死によって、私たちは、神が最初に用意してくださった状態に戻ることができるようになりました。つまり、永遠のいのちです。

次に、非常に多くのキリスト教徒の間で、また非キリスト教徒の間でも、イエスに関する、彼らの書籍や、彼らの信念の中で見られる、2つの欺瞞についてお話ししたいと思います。

1 つ目は、「イエスは神の一部ではない。」彼は、神ではない、ということです。つまり、イエスの神性は、エホバの証人までもが否定していて、聖書が主の神性について告げている聖書の箇所は、すべて取り除かれています。それが一つの欺瞞です。ところで、それを言う時、あなたは、主の永遠性を取り除いています。

そして、興味深いことに、2 つ目は、「イエスは、決して復活していない。」非常に多くの人々が…

ちなみに、こんにちのユダヤ人のほとんどが含まれます。彼らは、イエスが生まれ、イエスがここに居て、イエスが教えられたという歴史的事実を知っています。誰も、彼が存在しなかったとは言いません。しかしここに居る、キリストの信者ではない、多くのユダヤ人のうち、実際に、主が死から復活したと信じているという人は、どれぐらいいるでしょう？

ということで、2 つです。ある人たちは神性を否定し、ある人たちは復活を否定します。

そして、興味深いことに、まさにこの 2 つが、主がとても素晴らしく、他とは異なる点なのです。これらが、あなたに希望を与えるすべてです。考えてみてください。もし彼が、神の一部ではなく、もし彼が復活しなかったならば…ほんの数分前に話したことを思い出してください。希望ではなく、恐怖があり、間違いなく絶望、苦しみ、死があります。復活がなければ、おそらくこの世界は、そうなっていたでしょう。

興味深いことに、復活は、人々が知らなければならない最も重要なことの一つとして、福音書全体を通して書かれています。イエスが存在し、イエスが教えられ、イエスが十字架につけられたことさえ、そのすべてを証明するのは簡単です。ローマ文学でも、それを見ることができましょう。しかし、彼が復活したという事実が、す



べてを変えるのであって、それこそが、福音や書簡が、非常に多くの方法で何度も伝えようとしていることです。ですから聖書は、第一コリント 15 章 12~20 節で述べています。

- 12 ところで、キリストは死者の中から復活された、と宣べ伝えられているのなら、どうして、あなたがたの中に、死者の復活はない、と言っている人がいるのですか。
- 13 もし、死者の復活がないのなら、キリストも復活されなかったでしょう。
- 14 そして、キリストが復活されなかったのなら、私たちの宣教は実質のないものになり、あなたがたの信仰も実質のないものになるのです。
- 15 それどころか、私たちは神について偽証をした者ということになります。なぜなら、もしかりに、死者の復活はないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかったはずですが、私たちは神がキリストをよみがえらせた、と言って神に逆らう証言をしたからです。
- 16 もし、死者がよみがえらないのなら、キリストもよみがえらなかったでしょう。
- 17 そして、もしキリストがよみがえらなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もお、自分の罪の中にいるのです。
- 18 そうだったら、キリストにあって眠った者たちは、滅んでしまったのです。
- 19 もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です。
- 20 しかし、今や…

(第一コリント 15:12~20 a)

パウロは言います。「見なさい。あなたの信仰全体がそれに基づいているのです。」もし、それが起こっていなかったら、私たちは時間を無駄にしています。宣べ伝え、移動して、希望を与え、癒し、説教し、教え、伝道し、あなたのために祈り、時間を無駄にしています。そこに何の価値もありません。もしこれが、一世紀の一時的なものであれば、それで終わりです。それがすべてではありません。「しかし、今や…」彼は言います。

- 20 …キリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。(20 節 b)

それだけでなく、弟子たちや使徒たちは、それを証したのです。

ちなみに、使徒となるためには、主の復活、主の復活のからだの目撃者でなければなりません。イエスを知り、イエスを見て、このすべてを、個人的に証言できる人でなければなりません。ところで、キリストご自身、イエスが、彼の復活を予測しました。彼は、弟子たちにそれを隠しておられません。私たちは、それを忘れてはいけません。マタイの 16 章 4 節で、主はおっしゃいました。

- 4 「悪い、姦淫の時代はしるしを求めています。しかし、ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられていません。」そう言って、イエスは彼らを残して去って行かれた。(マタイ 16:4)

ヨナのしるし、魚の腹の中で三日三晩です。そして、非常に興味深いことに、マタイ 16 章 21 節、

- 21 その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。

(マタイ 16:21)

ところで、ここはピリポ・カイザリアです(13 節参照)。ペテロは、主を叱りつけているのです。つまり、ペテロはほんの数秒前、「あなたは、生ける神の子キリストです。」と認め、告白したばかりです。そして、イエスは仰っています。

17 このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。

(マタイ 16:17)

「あなたは正しく聞きました。わたしは、あなたが今言ったとおりの者だ。しかし、理解しなさい。キリストは、…」ところで、キリストはヘブライ語でメシア (מָשִׁיחַ) です。ギリシャ語のクリストス (Χριστός) は、ヘブライ語のメシア。そこには、メシアだとあります。メシアは、人ではありません。普通の女性から生まれた良い人が、ある年齢になると、平和と繁栄をもたらし、そして死ぬ、というわけではありません。いいえ、それは神の御子、肉体をまとった神です。ところで、彼の初臨の時、彼は苦しみ、彼は三日目によみがえらなければなりません。言い換えれば、イエスは彼らにおっしゃっているのです。

ほとんどの人にとって、理解するのが超難しいこと…

神は、ひとり子を犠牲にすることができるのか？ 彼はそうされるのか？

なぜ彼は、それをしなければならぬのか？ なぜそれがそんなに重要で、彼に必要なのか？

ご覧ください。主はおっしゃいます。主は、ただ死ぬという悲しい知らせだけで終わっていません。

主は、三日目によみがえられるとおっしゃいました。ヨハネ 12 章。

23 すると、イエスは彼らに答えて言われた。「人の子が栄光を受けるその時が来ました。

24 まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみまです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。

(ヨハネ 12:23~24)

驚くことに、私たちは、マサダで 2000 年前のナツメヤシの種を見つけて、それを植えました。それが今、新しい木になっているのです。地面に落ちていたのを、私たちは見つけました。その中にいのちがあったのです。しかし、まず、死ななければなりません。そして、ご覧の通り、主は、多くのいのちを生み出しておられます。

問題は…私は、弟子たちのことを考えていますが、イエスは、何回彼らに語られたか。しかも主は、彼らにすべてを詳細に話されました。問題は、彼が言ったかどうかではなく、あなたが聴くかどうかです。ここに書いてあることのうち、いくつ、人々は耳を傾けるのでしょうか？ 私たちは読み、聞き、私たちは、彼の言うことに耳を傾けますか？ なぜなら、彼の言うことを聴けば、彼が復活したことを知っているだけでなく、その復活が、最も重要なことであったことも分かります。復活された主として、今や、私たちもよみがえらせることができるのですから。まず、霊的な死から、それからもちろん、後に私たちは、肉体的な復活を見ます。弟子たちは、主と物理的にともにいたにもかかわらず、信じませんでした。なぜなら、2000 年前のユダヤ人は、神が御子を死ぬためのメシアとして送る、と考えて育てられていませんから。

ご覧ください。イエスがろばに乗ってエルサレムに入り、ゼカリヤ書 9 章を成就させた時、弟子たちは考えたのです。

「ああ…見ろよ。ここに彼が来られた。主は、ここからローマ人を追い出されるだろう。」

「彼は恐らく王国、メシニック王国を宣言され、彼は素晴らしいことをなさるのだ！」

それがなんと、主は立ち止まって、エルサレムのことで泣かれただけでなく、ろばから降りて、彼は行って、両替商や何かの台をひっくり返されます。

主には、宗教が人々を盲目にするのが見えたのです。あまりにも盲目になりすぎて、聖書に書いてあるにも関わらず、神の御言葉が理解出来ない。聖書の中にあるのに、彼らは、伝統とレビ記の教えにただ従い、そして、彼

らは、ただそれらの期待に従っていました。彼らは、初臨と再臨を混同し、そうすることによって、主が死ぬ必要性を取り除いたのです。なぜなら、彼らは、自分の罪のために、主の贖いの死は必要ないと考えていますから。

2000 年前のユダヤ人の考え方では、メシアは王国を確立するために来るのに、最大の問題は、自分の罪ではなく、ローマ人だったのです。最大の問題は、自分の罪ではなく、土地の外国占領です。彼らは 3 年間、毎日、主に従ったにもかかわらず、信じませんでした。そして、彼は何度もおっしゃったのです。それでも、彼らがまだ信じなかった。その為に、ペテロは困惑したのです。

そして、彼はただ驚いて、不思議に思いました。「墓が空だった。私が見たことは何だったのだろう？」  
ヘブル人への手紙 11 章は、次のように告げています。

1 **信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。** (ヘブル 11:1)

ほら、彼らは信仰を持っていなかったのです。彼らには、信仰がなかった。彼らは考えました。

「まあ、私たちは彼を見ているし、これだ！主は私たちと一緒にだ。」

そして、彼が死ぬと、彼らは悲しみ、泣いて、彼らは考えました。「これで終わりだ。彼はもう居ない。」

その復活の後でさえ、彼らは本当に彼が復活したと信じませんでした。エルサレムから、エマオまで歩いた二人の弟子は、…ところで、私はエマオへの道から、わずか 1 マイル半の所に居ます。彼らは、この地域で、私のすぐ後ろを通り過ぎたはずですが。そして、彼らは悲しく、恥ずかしく、怒っていて、とても落ち込んでいました。なぜか？ なぜなら、彼らが希望を込めた方、彼らが過去 3 年間従った方、確かにローマからイスラエルを救ってくれと、彼らが確信していた方は、まさに、犯罪者のように、木にかけられたからです。そして、彼は暴行され、彼は嘲笑され、恥ずかしめられ、屈辱を受けました。そして、彼は、その木から降ろされ、墓に入れられて、墓が封印されました。終わりです！彼が、十字架刑を生き延びる望みがあったなら。でも今、私たちは、彼が死んだことを知っている。そして今や、それで足りなければ、彼が死んでから 1 日、2 日、3 日経っていて、確かに、私たちは何人かの女たちが墓に行ったと聞いています。はい、確かに、彼が復活したと言っているのを、私たちは聞きました。でも、それはそれ！彼らは信じなかったのです。ルカ 24 章 44 節

44 さて、そこでイエスは言われた。「わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことばはこうです。わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、**必ず全部成就する**ということでした。」

(ルカ 24:44)

どこに書かれた？ 新約聖書？ いいえ！あの、人々は信じませんが、私は新約聖書の一節も読むことなく、メシア、イエシュアの信者になりました。その必要はありませんでした。彼が言ったことを見てください。

44 …「わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことばはこうです。わたしについて**モーセの律法と預言者と詩篇**とに書いてあることは、**必ず全部成就する**ということでした。」

(ルカ 24:44)

主は、福音書や書簡とは言っていない。違います。黙示録でもありません。これらの書はまだ書かれていませんでした。非常に興味深いです。ですから、主のおっしゃる通りです。モーセの書の中全体に、主が居られますから。創世記 1 章だけでも、真の世の光はメシアでした。もし、太陽と月と星が 4 日目に創造されたのなら、世の光は、どこから来たのか？

第一日目に、光があったのは、どういう事か？ 神が「**光があれ。**」とおっしゃった時、光とは誰なのか？

それだけではありません。他にもまだまだあります。だから、詩篇 72 章は言うのです。

יְהִי שְׁמוֹ לְעוֹלָם לְפָנֵי־שָׁמַיִם יְנִיחַ שְׁמוֹ וְיִתְבָּרַךְ בּוֹ כְּלִי־גוֹיִם יִאֲשְׁרֶהוּ

太陽が存在する前に、主の御名がすでにそこにあった。イエスはまた、詩篇全体で見つけることができます。救いの青写真である、メシアニック詩篇を 16 箇所 上げる事が出来ますよ。主がメシアであることを証明するために、私は、新約聖書に行きもしません。それらの詩篇を見れば、また最初から最後まで全体に、私たちの救いの青写真が、いたるところにあります。

預言書はどうでしょうか。私は、預言者イザヤ第 53 章を通して、信仰を得たのです。これが、私の人生全体を変えました。イザヤ、エレミヤ、ゼカリヤ、ホセア、ダニエル、それらのすべてが、神からの分離について、私たちを神から引き離れた罪について語り、約束された解決策について、新約聖書について語っています。人は私を信じませんが、ヘブライ語で新約聖書は、“be·rit cha·da·shah”

人は信じませんが、“be·rit cha·da·shah”、新約聖書”は、旧約聖書に登場します。

預言者エレミヤは、神がイスラエルとユダに“be·rit cha·da·shah”、新約聖書を与えることを、約束しました（エレミヤ書 31 章 31 節参照）。彼がそれを約束したのは、旧約聖書の中です。

イザヤ書 7 章では、奇跡的な誕生が約束されています。

14 …見よ。処女がみごもっている。…

(イザヤ 7:14)

そして初臨の拒絶が、イザヤ 53 章、メシアの苦しみ、メシアの犠牲、そしてもちろん、主の勝利、再臨さえもです。

ところで、今年は少し違って、過越しの祭りが始まって 1 週間後、今日は、その 1 週間後です。だから、今年の「キリスト教のカレンダー」と今年の「ユダヤ暦」は、本当に一致していないのですが、…ただ、私はキリスト教の暦も、ユダヤ暦も信じていなくて、私は、聖書の暦を信じています。そして、聖書の暦が告げているのは、ニサンの月が年初めの月で、…ところで、私の辺りを飛んでいるこれらの虫で、私が外にいる事がお分かりいただけるでしょう。

ともかく、聖書は告げています。過越しの祭りを祝い、過越し後の最初の日曜日は、初穂の祭りです。興味深いと思いませんか？ もし、主が十字架にかかったのが、木曜日か金曜日のどちらかで、…ところで、私は、その話はしませんよ。これもまた、主が埋葬された場所や、主が十字架にかかった日時について話しだすと、復活そのものを強調する所から、離れて行きますから。

しかし、言えるのは、あの日曜日の朝、マリヤがその墓に来た時、彼はすでによみがえっていて、そして、第一コリント 15 章が告げる通り、彼は、「よみがえりの初穂」でした。まさに、主が私たちの「過越し」だったのと同様、そして、例祭を通して、彼は種なしのパンであり、初穂であり、それから、ペンテコステの時、聖霊が降りました。

最初の 4 つの例祭の後、期間が開いて、それから、秋の祭りが来ます。それはもちろん、ラッパの祭り、ヨム・キプール、そして仮庵の祭りで、これらは、彼の再臨で成就されます。主は、イスラエルの祭りの中にさえおられ、預言書ホセア 5 章 15 節は、次のように告げています。

15 彼らが自分の罪を認め、わたしの顔を慕い求めるまで、わたしはわたしの所に戻っていよう。

彼らは苦しみながら、わたしを捜し求めよう。

(ホセア 5:15)





ホセアは言います。メシアは私たちの所、地球に戻って来られる、しかし、それは、イスラエルが認めた後、彼らが、自分達の罪深い性質を認め、主を受け入れ、実際に彼を招いて、そして、彼らが“祝福あれ。主の御名によって来られる方に”という時です。(マタイ 23:39 参照)

この為、イエスはオリーブ山で言われたのです。

39 『祝福あれ。主の御名によって来られる方に』とあなたがたが言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません。」

(マタイ 23:39)

ホセア書 6章 1～3 節

- 1 「さあ、主に立ち返ろう。主は私たちを引き裂いたが、また、いやし、私たちが打ったが、また、包んでくださるからだ。
- 2 主は二日の後、私たちを生き返らせ、三日目に私たちを立ち上がらせる。

(ホセア 6:1～2 a)

このように、3 日目にご自身が復活されたように、私たちも癒され、復活することがわかります。そして、彼が言うことを見てください。

- 2 …三日目に私たちを立ち上がらせる。私たちは、御前に生きるのだ。
- 3 私たちは、知ろう。主を知ること切に追い求めよう。主は暁の光のように、確かに現れ、大雨のように、私たちのところに来、後の雨のように、地を潤される。」

(ホセア 6:2 b～3)

ホセア 13 章。

- 14 わたしはよみの力から、彼らを解き放ち、彼らを死から贖おう。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。よみよ。おまえの針はどこにあるのか。あわれみはわたしの目から隠されている。

(ホセア 13:14)

イザヤ 25 章で、預言者イザヤが言っていることを見てください。

- 8 永久に死を滅ぼされる。神である主はすべての顔から涙をぬぐい、ご自分の民へのそしりを全地の上から除かれる。主が語られたのだ。

(イザヤ 25:8)

それから私は、ラザロの復活について考えています。考えてみて下さい。ほら、イエスは、よみがえりの初穂だった、それはどういう意味ですか？ 主が復活する前に復活した者は、皆、復活したが、死にました。ラザロは復活したが、彼は死んだ。彼は今日、私たちと一緒にいませんね。しかし、イエスが、ラザロの復活で話されたとき、彼は、ヨハネ 11 章で、こう仰いました。彼はマルタとマリアにおっしゃいました。

- 24 …「わたしは、よみがえりです。いのちです。」

(ヨハネ 11:25)

彼が言っていることを見てください。

- 24 …「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。

それから主は、彼女に尋ねました。

**このことを信じますか。」**

(ヨハネ 11:25~26)

基本的に彼は言われます。

「見なさい。わたしは、あなたのために死にますが、わたしはまた、よみがえりです」  
 そして、そこにはいのちがあります。朽ちる事のない命の力です。そして、わたしを信じる者達は、たとえ死んでも、彼らはまた生きています。彼らは、復活の一部になりますから。  
 そして、これは、私たち全員が生きている世代だと私は信じていますが、信じ、そしてまだ死んでいない人達があります。私は、これは私たちだと信じています。私はまだ生きていて、あなたも今、これを見ているなら、あなたはまた生きています。そして、主は言われます。

**26 また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。**

(ヨハネ 11:26)

言い換えれば、驚くべき携挙の時、キリストにあって眠った人々、死んだ人達がいて、生きている人がいます。明らかに、私たち、生きている者にとっては、死が取り消されます。そして、彼は彼女に尋ねました。  
 「この事を信じていますか?」「マルタ、わたしは、あなたの兄弟をよみがえらせたばかりです。」  
 「ほら、わたしは命を与えるだけでなく、命を奪う力を持っている。」

**18 だれも、わたしからいのちを取った者はいません。**

(ヨハネ 10:18)

主は言われました。

「わたしはわたしのいのちを捨て、それを取り戻す事が出来る。」もちろんそれは、神だけに出来る事です。

私は今、多くのユダヤ人に囲まれています。この制作チーム全体ですが、ユダヤ人がここにいる、すごいのです。私は、それについて考えていますが、ところで、ここにはかなりの数の人々がいて、彼らは、この設定から全てを、この数時間、非常に一生懸命働いてくれています。そして、私は考えているのですが、おそらく、彼らは頭を掻きながら、言っているのでしょう。

「ああ、彼は復活について話しているけど、それは本当に可能なのか?」

私は考えています。ご存知の通り、死からの復活は、非常にユダヤ的な事です。ユダヤ人が望んでいる事が3つあって、神殿の再建、メシアの到来、そして死からの復活です。すべての正統派ユダヤ人が、そう言いますよ。

そして、興味深い事に、1982年に本が書かれています。「Jewish perspective of the resurrection of Jesus」(ユダヤ人の視点から見たイエスの復活)ところで、それを書いたのは、神学者のピンチャス・ラピデで彼は、イエスの信者ではありませんでした。彼は、イエスが自分のメシアだとは、全く思いませんでした。

ところで、彼が尋ねられたとき、彼は言っています。「彼は、異邦人のメシアかも知れない。」

それが非常に興味深い事に、あの、ユダヤ人神学者であり歴史家が、本を書いて、言っているのです。こちらを見てください。「イエスが復活したことは間違いありません。」そして、誰もがショックを受けました。

「何?! あなたは、イエスが復活したと思うのですか?」

すると彼は言いました。「何か問題でも?」そして、彼らは彼に尋ねました。「説明してください。」

そこで彼は、彼らに4つのポイントを上げました。

① 一つ目に彼は言いました。「ところで、復活はユダヤ教の教義です。なぜあなたはそんなに…」

つまり、復活はユダヤ的です。ところで、バプテスマもユダヤ的です。バプテスマは、キリスト教徒のものではなく、非常に多くのユダヤ人が、毎日、儀式風呂ミクヴェでバプテスマを行っています。もちろん、私たちが主と共に葬られ、復活した事を示す象徴としてのバプテスマは、私たちが今、記念に行うものですが、概念としてのバプテスマは、ユダヤ教のもので、死からの復活は、非常にユダヤ的なこと、あるいは少なくともユダヤ人の希望です。

② しかし、その後、彼は面白いことを言いました。ピンチャス・ラピデは言いました。

「弟子や女たちは誰一人として、イエスが死ぬと信じませんでした。だから、これはでっち上げの本ではありません。」これは、人を、復活に至るまで誘導しようとするものではありません。いいえ。実際、彼らは信じませんでした。彼らは彼が死からよみがえるとは、信じませんでした。彼らは、何かに囚われていたのです。彼らは、主が来て支配統治される、という再臨の考えに囚われていたのです。

③ それが、最初の問題は、主が馬に乗って来なかった事で、彼はロバに乗って来ました。んんん…その後、彼は征服するのではなく、彼は立ち止まって泣きました。しかし、その後、ピンチャス・ラピデは言います。

「見てください。私は新約聖書の福音書の記述を読みましたが、極度に正直に記されている。」  
言い換えれば、ペテロは困惑し、弟子、エマオに行った 2 人の弟子、彼らは悲しんでいました。ここには何か、人の心を操作するような策略はありませんでした。それは、極度に正直に記されていた。言い換えれば、もし彼が復活したならば、それは起こったに違いない。

④ なぜか。それが第四のポイントです。弟子集団の変身。それについて考えてみてください。皆さん、福音書の終わりと、使徒の働き初めについて、考えてみてください。打ち負かされた人の集団に対して、大胆で活発な人々の集団を見ます。希望のない人々、恥じている人達、恥ずかしく思っている人、怒っている人、そして彼らは、おそらく愚かだと感じていたでしょう。私たちは、おそらく 3 年を無駄にしてきた。私たちは思っていた…。エマオに行っていた二人の弟子を見てください。

21 …この方こそイスラエルを贖ってくださるはずだ、と望みをかけていました。

(ルカ 24:21)

しかし、その後どうですか？ その変化、使徒の働きと、その直後に起こるすべては、驚くべき変革です。彼らが宗教的な考え方であったとき、彼らは、それが見えませんでした。そして、彼らがようやく信仰を持ったとき…彼らは主を見たので、しかし、主が天の御父の元に行かれた後は、彼らは、主が生きているだけでなく、戻ってくると信じる必要がありました。

宗教は、あなたを救うことができません。実際には、あなたを欺き得ます。あなたを欺き、あなたは大丈夫だと思わせるのです。だから、その代償の死は必要ない、と。死の必要がないので、復活も必要ありません。

イザヤ書 1 章、私が信仰に至った時、神が、宗教を憎んでおられることに気づいて、ものすごい衝撃を受けました。神はおっしゃいます。

14 あなたがたの新月の祭りや例祭を、わたしの心は憎む。

(イザヤ 1:14)

誰がそう言ったのか？ 預言者イザヤです。イスラエルの民に向かって。彼は言いました。

「あなた方が変えてしまったものを、わたしは忌み嫌う、わたしは耐えられない。」

一方で、あなたは、祈りやその他すべてを行い、他方で、あなたは嘘をつき、欺き、怒り、あなたは舌で人を殺している。多分あなたの手でさえ、あなたの手は血まみれだ。彼は、言います。わたしは、その両方を容認できない。彼は言います。あなたは、洗われなければならない、あなたは、清められなければならない。

どのように洗うことができますか？ どうすれば、清められるのでしょうか？ 緋のように赤いあなたの罪が、どうすれば白くなるのか。どうすれば、雪のように白く出来るのか？ 贖いの裁きが起きなかったなら。

代替の超、超、超貴重な血が、あなたの身代わりに、あなたの為に流されなかったなら。

その為に、あなたは、あなたの罪のために死ぬ必要がないのです。その復活の力を、覚えておいてください。

主が死に、悲しい、しかしそれで終わりだったら、私たちは、他のどの宗教とも何ら違いがありません。イスラム教徒は、ムハンマドを信じています。ムハンマドは死にました。仏教徒は仏陀を信じ、仏陀は死んでいます。

つまり、すべての宗教は、預言者や指導者を信じていますが、それらはすべて、死んでいます。

復活の力、復活そのものが、すべてを異なるものとし、すべてを完全に革命的にします。

ピリピ人への手紙 3 章は言います。

4 **ただし、私は、人間的なものにおいても頼むところがあります。もし、ほかの人が人間的なものに頼むところがあると思うなら、私は、それ以上です。**

5 **私は八日目の割礼を受け、イスラエル民族に属し、ベニヤミンの分かれの者です。**

パウロはピリピの教会に言っているのです。

5 **私は八日目の割礼を受け、イスラエル民族に属し、ベニヤミンの分かれの者です。きつすいのヘブル人で、律法についてはパリサイ人、（覚えていますか？）**

6 **その熱心は教会を迫害したほどで…**

（ピリピ 3:4~6）

パウロ、ヘブライ語ではシャウル、彼は教会を迫害しました。そして、彼の言うことを見てください。彼は言います。

6 **律法による義についてならば非難されるところのない者です。**

7 **しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。**

（ピリピ 3:6~7）

「私は、自分は完璧だと思っていた、私は宗教的な男だ。また、必要であれば、もしくは可能であれば、私は出かけて行って、キリスト教徒を殺すこともした。しかし、今、私の目は開かれ、これらすべてが、単なるつまづきであったことを理解している。それらは『スクバロン』だった。」 『スクバロン』はギリシャ語で、“肥やし”、ゴミです。彼は言います。「私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。」

8 **それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらを“ちりあくた”と思っています。（これが、私が話した“ゴミ”です。）それは、私には、キリストを得、また、**

9 **キリストの中にある者と認められ、律法による自分の義ではなくて、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基づいて、神から与えられる義を持つことができる、という望みがあるからです。**

10 **私は、キリストと（何ですか？）その復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、**



- 11 どうにかして、死者の中からの復活に達したいのです。  
 12 私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追求しているのです。そして、それを得るようとキリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。  
 13 兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕らえたなどと考えてはいません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、  
 14 キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。

(ピリピ 3:8~14)

ヨブ、ヘブライ語の「イヨブ」、聖書の中で最も古い書です。

- 25 私は知っている。私を贖う方は生きておられ (ヨブ 19:25)

וְיָדַעְתִּי כִּי־יִשְׁכֵּחַ אֱלֹהֵינוּ אֶת־עַמּוּנוֹ וְיִשְׁכַּח אֶת־אֱלֹהֵינוּ

- 25 私は知っている。私を贖う方は生きておられ、後の日に、ちりの上に立たれることを。  
 26 私の皮が、このようにはぎとられて後、私は、私の肉から神を見る。  
 27 この方を私は自分自身で見る。私の目がこれを見る。ほかの者の目ではない。私の内なる思いは私のうちで絶え入るばかりだ。

(ヨブ 19:25~27)

彼は、自分の贖い主が生きておられる事を知っていました。そして、あれだけの事を経験していても、彼は、神を憎んでおらず、それどころか、彼は彼のメシア、彼の贖い主に会うことを、切望していました。

間違いなく、新しい祭司職が必要です。宗教は、答えではありません。宗教が問題です。

ヘブル人への手紙 7章は言います。

- 7 いうまでもなく、下位の者が上位の者から祝福されるのです。  
 8 一方では、死ぬべき人間が十分の一を受けていますが、他の場合は、彼は生きていとあかしされている者が受けるのです。  
 9 また、いうならば、十分の一を受け取るレビでさえアブラハムを通して十分の一を納めているのです。  
 10 というのは、メルキゼデクがアブラハムを出迎えたときには、レビはまだ父の腰の中にいたからです。  
 11 さて、もしレビ系の祭司職によって完全に到達できたのだったら、——民はそれを基礎として律法を与えられたのです——それ以上何の必要があって、アロンの位でなく、メルキゼデクの位に等しいと呼ばれる他の祭司が立てられたのでしょうか。

メルキゼデクはレビの子孫ではなく、アロンの子孫、祭司でもありません。彼は、アロンの位でないと、ここで言っています。

- 12 祭司職が変われば、律法も必ず変わらなければなりません、  
 13 私たちが今まで論じて来たその方は、祭壇に仕える者を出したことの無い別の部族（イエスはユダ族の出身です）に属しておられるのです。  
 14 私たちの主が、ユダ族から出られたことは明らかですが、モーセは、この部族については、祭司に関することを何も述べていません。  
 15 もしメルキゼデクに等しい、別の祭司が立てられるのなら、以上のことは、いよいよ明らかになります。

- 16 その祭司は、肉についての戒めである律法にはよらないで、（何ですか？）朽ちることのない、いのちの力によって祭司となったのです。

（朽ちることのない、いのち…）

- 17 この方については、こうあかしされています。  
「あなたは、とこしえに、メルキゼデクの位に等しい祭司である。」
- 18 一方で、前の戒めは、弱く無益なために、廃止されましたが、
- 19 ——律法は何事も全うしなかったのです——他方で、さらにすぐれた希望が導き入れられました。私たちはこれによって神に近づくのです。

（ヘブル7:7-19）

そしてそれは、朽ちないいのちの力のおかげです。

ローマ人への手紙は、全福音、全新約聖書のマグナカルタで、その書の中で非常に中心的なものは、何でも、私たちの信仰において非常に重要であると、皆さんは思うでしょう。確かに、この書は、純粋な教義です。パウロは、ローマの人達にこの手紙を書いた時、一度も彼らに会ったことがなく、彼は、それまでローマに行ったことがなかったのです。彼はギリシャのコリントにいる間に、ローマの教会に手紙を書き、そして彼は、16章の純粋な教義からなるローマ人への手紙を書きました。ご覧の通り、ローマ書6章4節、「新しい歩み」

- 4 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。

（ローマ6:4）

霊的に、私たちは死者の中からよみがえっている、と彼は言います。

ローマ6章9節、「死は支配権を持たない」

- 9 キリストは死者の中からよみがえって、もはや死ぬことはなく、死はもはやキリストを支配しないことを、私たちは知っています。

（ローマ6:9）

ローマ7章4節、「神の為に実を結ぶ」

- 4 私の兄弟たちよ。それと同じように、あなたがたも、キリストのからだによって、律法に対しては死んでいるのです。それは、あなたがたが他の人、すなわち死者の中からよみがえった方と結ばれて、神のために実を結ぶようになるためです。

（ローマ7:4）

その復活は、神の為に実を結べるようになる為の鍵です。

ローマ書8章11節、「あなたの死ぬ体への命」

- 11 もしイエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、キリスト・イエスを死者の中からよみがえらせた方は、あなたがたのうちに住んでおられる御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも生かしてくださるのです。

（ローマ8:11）

ローマ 10 章 9 節、「信仰の告白」

- 9 なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中から（何？）よみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。

（ローマ 10:9）

このように、非常に重要です。あの復活を告白し信じなければ、救いはなく、贖い也没有せん。もし彼がその墓にいて、私たちが骨を見つけるなら、それまでです。それで話は終わり、希望はありません。贖いはなく、救いもなく、何也没有せん。

聖書は、約束について述べています。

第二テモテ 2 章、「私たちは彼と共に治める」2 章 11～13 節で、パウロは言います。

- 11 次のことばは信頼すべきことばです。「もし私たちが、彼とともに死んだのなら、彼とともに生きるようになる。
- 12 もし耐え忍んでいるなら、彼とともに治めるようになる。もし彼を否んだなら、彼もまた私たちが否まれる。
- 13 私たちは真実でなくても、彼は常に真実である。彼にはご自身を否むことができないからである。」

（第二テモテ 2:11～13）

そして、覚えていてください。第一の復活は、初穂である主から始まりましたが、それには 2 つあって、主がいて、私たちがいます。それを覚えておいてください。

コロサイ人への手紙 2 章

- 13 あなたがたは罪によって、また肉の割礼がなく死んだ者であったのに、神は、そのようなあなたがたを、キリストとともに生かしてくださいました。…

（コロサイ 2:13 a）

霊的な復活があり、その後、物理的なものがあります。

- 13 …それは、私たちのすべての罪を赦し、
- 14 いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちが責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。
- 15 神は、キリストにおいて、すべての支配と権威の武装を解除してさらしものとし、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えられました。

（コロサイ 2:13 b～15）

第一テサロニケ、ここで、物理的な復活が来ます。

- 16 主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、
- 17 次に、生き残っている私たちが…

（第一テサロニケ 4:16～17 a）

覚えていますか？ 主は仰いました。

- 25 …「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。

26 また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。」

(ヨハネ 11:25~26)

パウロは言います。見てください。

16 …それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、

17 次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ…

(ギリシャ語で “ハルパゾー <ἁρπαζὸς>” )

空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。

18 こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。

(第一テサロニケ 4:16b~18)

皆さん、2021年、私たちは、世界中でパンデミックの真っ只中にいます。世界中でロックダウンがあって、世界中で厳しい制限が課されています。経済は苦しみ、狂気はいくつかの政府を占領していて、あらゆる所で狂気の沙汰が圧倒しています。それでも彼は言います。「“このことばをもって”、互いに慰め合いなさい。」

覚えておいてください、あなたはすでに霊的には死からよみがえっているかもしれませんが、しかし、第二の部分に来るのです。肉体的な復活です。それを握りしめて、これらの言葉で互いに慰め合いなさい。

そしてもちろん、黙示録 20 章です。

6 この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。

(黙示録 20:6)

覚えておいてください。それは非常に、非常に、非常に明確でなければなりません。

2つの誕生があり、2つのいのちがあり、2つの死があり、2つの復活があります。

肉からの誕生があり、上からの霊の誕生があります。そして、肉体的いのちがあり、あなたが信者になる時、新しいいのちがあります。そして、最初の死があって、私たち全員がそれを経験する可能性があります。私たちは死すべきからだを持っていますから。

そして、第二の死があります。それは信じなかったすべての人の、最終的な死です。そして、最初の復活があって、初穂であるキリストが初めに、それから、私たちです。そして、第二の復活は、千年王国の後、裁きの白い御座での、最終的な裁きです。

そこで、このメッセージの結論にあたって、皆さんを励ましたいと思います。確かに、皆さんの多くにとって、現在世界中で起こっているすべてのものは、まるで、石がまだ転がっていて、希望も未来もなく、光もないように見えるかもしれませんが、しかし、皆さんを励ましたいのです。

ここから 14 キロ離れたエルサレムでは、ここから 10 マイル以内の場所、

エルサレムでは、お墓は空っぽです。エルサレムでは、石は転がされています。

エルサレムでは、朽ちる事ない命の力の証があります。

エルサレムでは、死が打ち負かされただけでなく、その後、主が戻って来られます。

そして、主が戻って来られる時、まず、主は私たちを空中に迎え彼のみもとに連れて行き、それから、あの都に戻って来られます。それは、7 年間の恐ろしい大患難の後で、彼らが、『祝福あれ。主の御名によって来られる方に』と懇願した時、主は来て、彼が約束された通り、彼らを救われます。そして、ゼカリヤ書 12 章が告げてい



る通り、彼らが突き刺した方を見ます。そしてもちろん、聖書はそれらすべてを予測し、その全てが… 全てです。

すべてが、復活に基づき、取り囲み、密接しています。復活がなければ、私たちの信仰は虚しく、私たちの希望は消え去り、私たちの人生は哀れです。よく考えてみてください。死んだ人を信じて何の意味がありますか？  
ところで、復活すると言っておいて、決してしなかったら？ しかし、神に感謝な事に、500 人以上の人々が非常に多くの異なる場所、異なる場面で主にお会いしています。そして、彼らが私たち全員の為に、あれら全てを書いたとき、それは、ただの信念と信仰だけではなく、彼らの目撃証言だったのです。主は確かによみがえった！

これから数時間後、太陽が昇り始めると、アジア、オーストラリア、ニュージーランド、日本、さらに数時間以上後、世界の他の国々で太陽が昇るとき、皆さん、どうか思い出してください。

主はよみがえりました！ 私たちには、希望があります。

私たちの希望は、イスラエルとその弟子達に「どこにも行かない」と約束された主にあります。

言い換えれば、彼は、戻って来られます。主はご自身の民の為に戻って来られます。最初は、ご自身の民を連れて行かれ、そしてイスラエルが大患難を通して悔い改めた後、彼らの為に来て、彼らを救われます。

お父様、このすばらしい真理をありがとうございます。復活は、とても鮮やかで、真実です。

私たちの人生を考えると、私たちの人生の中で、復活の第一段階がすでに始まっているのを見ます。

私たちは、確かに、私たちを捕らえていたその死から霊的によみがえりました。そして今、私たちは、すぐにあなたが私たちをここから連れ出してくださるのを待っています。あの、とてもすばらしい携挙によって、信者が主と一緒にになります。そしてもちろん、そのすべては、復活と朽ちることのない、いのちの力のおかげです。

それが新しい祭司職をもたらし、そして宗教を押しつけて信仰の場となる新しいシステムをもたらしました。

私たちはあなたに感謝し、私たちはあなたを祝福します。また、現在つらい時期を過ごしている、すべての人の為に祈ります。特に、世界中で、厳しいロックダウンに戻った国々の人たち、西はカナダから、西欧と東欧、また、フィリピンや東南アジア、その他。

お父様、これから 24 時間で、人々があなたの御言葉から多くの希望と慰め、喜びを受けることを祈ります。

人となり、私たちの間に住まわれた、そのことば、死と墓が、引き止めることの出来なかった、そのことば、その言葉が、死を打ち負かしたので、私たちは、霊的な復活だけでなく、肉体的な復活に対する、とても素晴らしい期待を待つことができるのです。

あなたに感謝し、あなたを祝福し、このお祈りを、素晴らしく他にない方、イエシュア、私たちの救い、死を打ち負かした方、戻って来て私たちを救ってくださる方、主の御名によって捧げます。

あなたに感謝し、あなたを祝福します。アーメン。

皆さん、ありがとうございます。今夜、ユダ族の丘から私たちとご一緒くださり、感謝します。

エルサレムの空のお墓から、10 マイル以内の場所より、よみがえりの初穂、おめでとうございます。

私は、イシュタルや、アシュタロテや、繁殖の神々、ウサギや卵から来る、イースターという言葉は使いたくありません。

私は、レビ記 23 章の聖書の言葉、「初穂の祭り」を使います。確かに、彼は、よみがえりの初穂でした。

では、皆さん、素晴らしい初穂の祭りの日曜日をお過ごしください。神の祝福がありますように。

イスラエル、エルサレムの丘よりシャローム。

God bless you! さようなら。

2021年4月3日 初回公開（日本語版 2021/4/25 公開）

【写真出典一覧】

- ・詩篇 72:17 ヘブル語:Hebrew-English Bible



スマートフォンなどのカメラで読み込むと、このメッセージを YouTube で見られます。  
《リンク先: <https://youtu.be/QOlv7cZE9NE>》



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel

<https://beholdisrael.org>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

